



PX-S1000

取扱説明書（基本編）（保証書別添）

本書は、お読みになったあとでも、保証書とともに、大切に保管してください。別紙の「安全上のご注意」をお読みの上で、正しくお使いください。

本書には、基本的な操作方法がまとめられています。より詳しい情報については、弊社ウェブサイト（QRコード、または下記URLからアクセス可）の「取扱説明書」を参照してください。

<https://support.casio.jp/emi/manual/PX-S1000/>



- 乾電池だけで本機を使用しているときに、大きな音量で演奏や曲再生をすると、音が歪んで聞こえる場合があります。これは、ACアダプターと乾電池の違いによるもので、故障ではありません。音の歪みが気になる場合は、ACアダプターでご使用頂くか、音量を下げてください。

本機でできること

- ✓ **18種類の音色で鍵盤演奏を楽しむ**
※ 本書「音色を選んで弾く」
- ✓ **鍵盤の感度を調節する**
※ 本書「鍵盤の感度を調節する（タッチレスポンス）」
- ✓ **ホールシミュレーター効果とサラウンド効果**
※ 本書「サウンドモード」
- ✓ **メトロノームでテンポを保つ練習**
※ 本書「メトロノームを使う」
- ✓ **鍵盤を左右に分けて2人で弾く**
※ 本書「鍵盤を左右に分けて2人で弾く（デュエット）」
- ✓ **内蔵曲を聴く、曲を練習する**
※ 本書「デモ演奏を聴く」、「曲を聴く（ミュージックライブラリー）」
- ✓ **演奏を録音・再生する**
※ 本書「演奏を録音/再生する（MIDIレコーダー）」
- ✓ **スマートデバイスで本機を操作**
※ 本書「スマートデバイスとリンクする（APP 機能）」

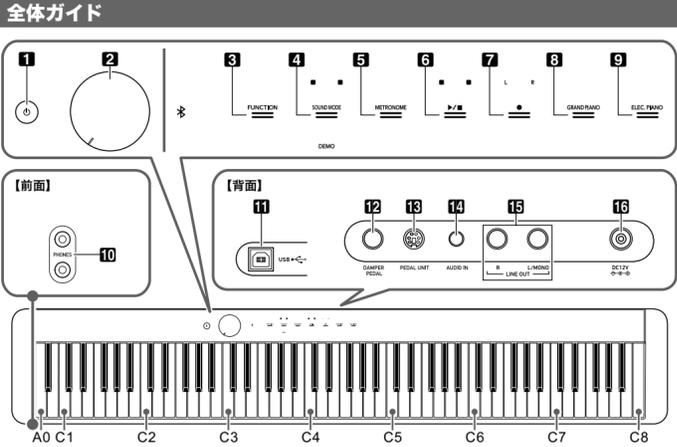
- ✓ **Bluetooth接続で本機からスマートデバイスの再生音を鳴らす**
※ 本書「本機をBluetoothスピーカーとして使う」

✓ **ほかにも、こんなことができます**

- 鍵盤の音の高さを変更（トランスポーズ、チューニング、オクターブシフト）
- エフェクト（コーラス、プリアンプ）
- アコースティックピアノの音の特徴を調整（アコースティックシミュレーター）
- 平均律をはじめ17種類から音律を選択（スケールチューニング）
- パソコンと接続して演奏情報（MIDIデータ）を送受信

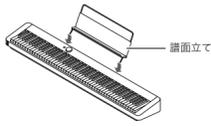
※ 弊社ウェブサイト（上記）の「取扱説明書」、「鍵盤機能一覧」、「Bluetoothスピーカー活用×オーディオ&パソコン接続ガイド」を参照

- ✓ **困ったときは**
※ 弊社ウェブサイト（上記）の「取扱説明書」を参照



- | | | |
|------------------------|--------------------------|-------------------------------|
| 1 (電源) ボタン | 7 ● (REC) ボタン | 18 PEDAL UNIT端子 |
| 2 音量つまみ | 8 GRAND PIANOボタン | 19 AUDIO IN端子 |
| 3 FUNCTION ボタン | 9 ELEC. PIANOボタン | 19 LINE OUT R、L/MONO端子 |
| 4 SOUND MODEボタン | 10 PHONES端子 | 19 電源端子 (DC 12V) |
| 5 METRONOMEボタン | 11 USB 端子 | |
| 6 ▶/■ ボタン | 12 DAMPER PEDAL端子 | |

譜面立ての準備



- ✓ **本機を工場出荷時の状態に戻すには**
本書裏面の「本機を工場出荷時の状態に戻す」をご参照ください。

鍵盤の音名と音高について

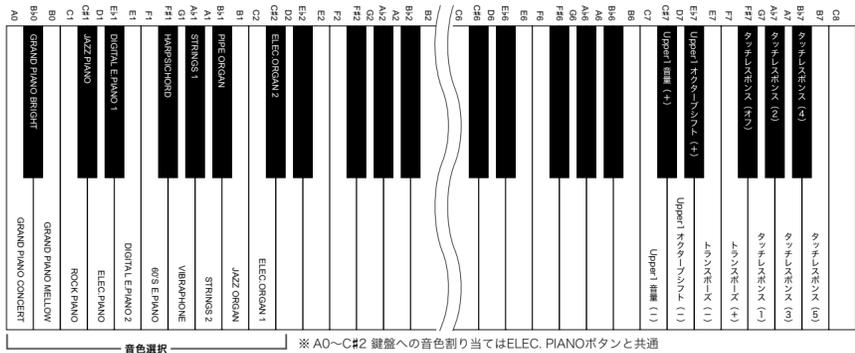
本書では鍵盤の音名と音高を国際的(中央ド＝「C4」)で表記しており、一番低いドの鍵盤を「C1」、一番高いドの鍵盤を「C8」と呼びます。各鍵盤の音名表記は下記のとおりです(図はC4からC5までの例です)。

C#4	E#4	F#4	A#4	B#4	
C4	D4	E4	F4	G4	A4
					B4
					C5

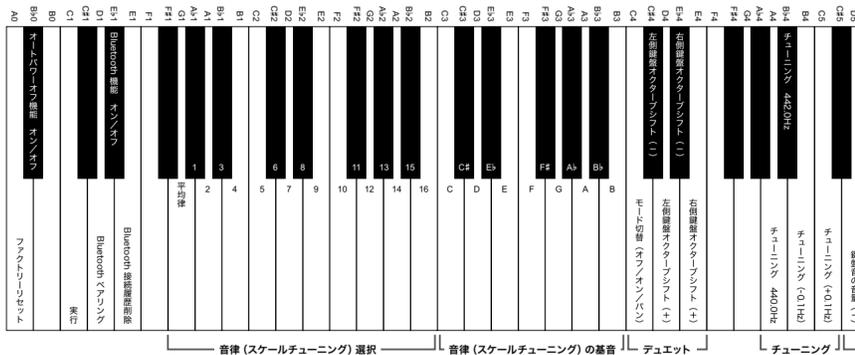
鍵盤機能一覧

タッチボタンを押さえたまま鍵盤を押すことで、本機のみさまざまな機能を利用できます(※ 詳細は弊社ウェブサイトの「鍵盤機能一覧」を参照)。

■ GRAND PIANO ボタン + 鍵盤 ※



■ FUNCTION ボタン + 鍵盤



付属品、別売品について

付属品や別売品は、必ず本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となる場合があります。

付属品一覧

- 譜面立て
- ACアダプター (AD-A12150LW)
- 電源コード
- ペダル (SP-3)
- 楽譜集
- リープ類
 - 取扱説明書(本書)
 - カシオ電子楽器保証書
 - 安全上のご注意
 - アフターサービス窓口について
 - その他

- 欠品、破損、紛失等の場合は、ご購入された販売店にお問い合わせください。(ACアダプターは別売品で購入可能)
- 付属品のデザインと内容は、予告なく変更されることがあります。

楽譜集について

付属している楽譜集のPDFデータを弊社ウェブサイト（QRコード、または下記URLからアクセス可）からダウンロードできます。お手持ちのスマートデバイスで楽譜を閲覧できます。PDFデータは、目次から楽譜ページに直接アクセスできる機能がついていた、弾きたい曲だけをプリントアウトできて便利です。

<https://support.casio.jp/emi/manual/PX-S1000/>



別売品のご案内

商品名	品番
ヘッドホン	CP-16
ペダル	SP-3 SP-20 SP-34
イス	CB-5 CB-7 CB-30
スタンド	CS-68P
ソフトケース	SC-800P
ACアダプター	AD-A12150LW

- カシオ電子楽器取扱店で購入可能。
- 別売品については、店頭の商品カタログでより詳しい情報がご覧いただけます。

<https://support.casio.jp/emi/manual/PX-S1000/>



演奏の準備

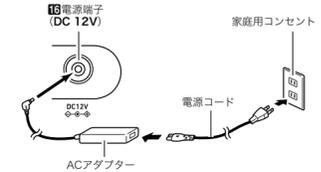
電源の準備

■ ACアダプターを使う

本機指定のACアダプター（JEITA規格・極性統一形プラグ付き）を使用してください。他のACアダプターを使用すると故障の原因になることがあります。

ACアダプターの型式: AD-A12150LW (JEITA Standard plug)

ACアダプターの接続には、付属の電源コードをご使用ください。



【重要】

- 本機付属のACアダプター（JEITA規格・極性統一形プラグ付き）は、本機にのみご使用ください。他の機器への接続は絶対に行わないでください。故障の原因となります。
- ACアダプターを差したり抜いたりする前に、必ず本機の電源を切ってください。
- 長時間ご使用になりますとACアダプターが若干熱をもちますが、故障ではありません。

■ 乾電池を使う

【重要】

- 乾電池を入れる前に、必ず本機の電源を切ってください。
- 乾電池は市販のアルカリ乾電池をご使用ください。
- 乾電池を入れるために本機を裏返すときは、次のことにご注意ください。
 - 本機の下に手を挟まないようご注意ください。けがの原因となります。
 - 不用意に倒すなどして、本機に衝撃を与えないでください。音量つまみや鍵盤が破損する原因となります。

- 本機の裏側にある電池ボタンをはずします。
- 市販の単3形乾電池、6本を電池ケースに入れます。本体の印に合わせて◎◎の向きを間違えないように入れてください。
- 電池ケースの穴にツメを差し込み、電池ケースのフタを閉じます。

■ 乾電池消耗のお知らせ表示

乾電池が消耗してくると、**9** FUNCTIONを除くすべてのタッチボタンが点滅します。演奏の音量を下げても点滅が続く場合、新しい乾電池と交換してください。

【重要】

- 電池が消耗したまま本機の使用を続けると、自動的に電源が切れます。この場合、本機に記録しているデータが破損・消失する恐れがあります。

電源の入れ方、切り方

- 電源を入れる前に、**2** 音量つまみを下図の位置まで回しておきます。



- 1** (電源) ボタンを押して、本機の電源を入れます。電源が入ると、本機フロントパネル部のタッチボタンが左から右(**9** FUNCTION→**9** ELEC. PIANO)で、順次点灯します。すべてのタッチボタンが点灯したら、本機が使用できる状態になります。
- 2** 音量つまみを使って、音量を調節します。
- 本機の電源を切るには、点灯しているタッチボタンがすべて消灯するまで、**1** (電源) ボタンを押し続けます。

【メモ】

- **1** (電源) ボタンを軽く押しても電源が入らない場合がありますが、故障ではありません。その場合は**1** (電源) ボタンをしっかりと押し直してください。
- **1** (電源) ボタンで電源を切ったあとも、本機は微電流が流れているスタンバイ状態になっています。本機を長時間使用しないとき、あるいは落雷のおそれがあるときは、必ずACアダプターをコンセントから外してください。

■ 電源切り忘れお知らせ機能について

本機をACアダプターに接続して使用しており、何も操作せずに約6分間が経過すると、タッチボタンが順番に点灯と消灯を繰り返すので、本機の電源が入ったままになっていることをお知らせします。ボタンにタッチしたり鍵盤を押したりするなど、何らかの操作をすると、通常の状態(すべてのボタンが点灯)に復帰します。電源を切り忘れていた場合は、点灯しているタッチボタンがすべて消灯するまで**1** (電源) ボタンを押し続けて、本機の電源を切ってください。

■ オートパワーオフ機能

本機を何も操作せずに一定時間が経過すると、無駄な電力消費を防ぐため自動的に電源が切れます。電源が切れるまでの時間は、約4時間(ACアダプター使用時)/6分(電池使用時)です。

- コンサートなどで演奏の合間に電源が切れないよう、下記の操作でオートパワーオフ機能をキャンセルすることもできます。下記操作で使う鍵盤の位置は、「鍵盤機能一覧」の「FUNCTION ボタン + 鍵盤」をご参照ください。

- 9** FUNCTIONを押さえたまま、B#0鍵盤を押します。
 - B#0鍵盤を押して設定が切り替わるたびに、通知音が鳴ります。低い音が鳴るとオートパワーオフがキャンセルされ、高い音が鳴るとオートパワーオフが有効になります。
- 希望する設定に切り替わったら、**9** FUNCTIONを離します。

ペダルを使う

■ DAMPER PEDAL端子について

付属のペダル(SP-3)を**12** DAMPER PEDAL端子に接続します。このペダルは、本機の初期設定ではダンパーペダルとして機能します。ペダルに割り当てる機能の切り替えについては、弊社ウェブサイトの「取扱説明書」を参照してください。

■ PEDAL UNIT端子について

※ 弊社ウェブサイトの「取扱説明書」を参照

18 PEDAL UNIT端子には、別売のペダルユニット(SP-34)を接続してご利用ください。よりグランドピアノに近い、表現力豊かなペダル演奏が楽しめます。

ヘッドホンを使う

ヘッドホンを使用すると内蔵スピーカーから音が出なくなり、夜間でも周囲に気兼ねなく演奏が楽しめます。

- 本機の音量を絞ってから、ヘッドホンを接続してください。

【メモ】

- ヘッドホンは本製品に付属されておりません。
- 別売または市販のヘッドホンをご使用になれます。

【重要】

- **大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害になる恐れがあります。**
- ヘッドホンのコードを本機から抜くときは、**交換プラグ**だけを本機に残さないようご注意ください。**プラグが残っていると演奏しても音が出ません。**

タッチボタンの操作

【重要】

- **タッチボタンを操作するときは、素手の指でしっかりタッチしてください。手袋をした指には反応しません。**

■ タッチボタンを単独で操作する

タッチボタンにタッチする(指先でしっかりタッチしてすぐに離す)と、そのボタンの機能が実行されます。例えば**9** ELEC. PIANOにタッチするとELEC.PIANO音色が選ばれ、**5** METRONOMEにタッチするとメトロノームが鳴り始めます(または停止します)。

■ タッチボタンと鍵盤を組み合わせて操作する

タッチボタン(**7** ● (REC) ボタンを除く)と鍵盤を同時に使うことで、本機のみさまざまな設定を変更できます。JAZZ ORGAN音色を選ぶ操作で説明します。

- 9** GRAND PIANOを押さえたままにします。
 - 手順3で**9** GRAND PIANOを離すまでは、鍵盤を使って、音色選択など設定の変更ができます(可能な操作は、「鍵盤機能一覧」をご参照ください)。
- B1鍵盤を押します。
 - JAZZ ORGANの音色が選ばれ、確認音としてJAZZ ORGANの音が鳴ります。
- 9** GRAND PIANOを離します。
 - JAZZ ORGANの音で鍵盤演奏ができます。

■ タッチボタンの自動消灯(パネル消灯設定)について

省電力のため、一定時間ボタン操作をしなかったときに、**9** FUNCTIONを除くボタンを自動的に消灯させる設定が可能です。 ※ 弊社ウェブサイトの「取扱説明書」を参照

音色を選んで弾く

全鍵盤用の17音色と、低音部専用のベース音色を内蔵しています。

音色を1つ選ぶ

■ 鍵盤を使って音色を選ぶには

- 9** GRAND PIANOを押さえたまま、A0～C#2鍵盤のいずれか1つを押します。
 - 例えばF#1鍵盤を押すとHARPSICHORDの音色が選ばれ、確認音としてHARPSICHORDの音が鳴ります。
 - 各鍵盤で選べる音色は、「鍵盤機能一覧」の「GRAND PIANO ボタン + 鍵盤」をご参照ください。
- 9** GRAND PIANOを離します。

■ タッチボタンで音色を選ぶには

この音色を選ぶには、このボタンにタッチする:

GRAND PIANO CONCERT	9 GRAND PIANO
ELEC.PIANO	9 ELEC. PIANO

レイヤーとスプリット

2つの音色を同時に鳴らしたり(レイヤー)、鍵盤全体を左右に分けて、低音部でベースの音を鳴らしたり(スプリット)することができます。

■ レイヤーを使って2音色を重ねて鳴らすには

- 「音色を1つ選ぶ」の操作で、音色を選びます。
- 手順5まで、**9** ELEC. PIANOを押さえたままにします。
- C7鍵盤を押して、レイヤーをオンに切り替えます。
 - C7鍵盤を押すたびに、レイヤーがオンとオフの間で切り替わります。

■ A0～C#2鍵盤のいずれか1つを押して、同時に鳴らしたい音色を選びます。

- 各鍵盤で選べる音色は、「鍵盤機能一覧」の「GRAND PIANO ボタン + 鍵盤」をご参照ください。
- 9** ELEC. PIANOを離します。
 - 1つの鍵盤を押しただけで、選んだ2つの音色が同時に鳴ります。

■ スプリットを使って低音部でベースを鳴らすには

- 「音色を1つ選ぶ」の操作で、高音部で鳴らすための音色を選びます。
- 9** ELEC. PIANOを押さえたまま、D2鍵盤を押します。低音部にベースが割り当てられます。
- 9** ELEC. PIANOを離します。

【メモ】

- レイヤーやスプリットを解除するには、**9** GRAND PIANOまたは**9** ELEC. PIANOにタッチします。

デモ演奏を聴く

- 9** FUNCTIONを押さえたままにします。
 - **9** FUNCTIONとDEMOが点滅し、**4** SOUND MODEが点灯します。
- 4** SOUND MODEにタッチします。
 - DEMOと**6** ▶/■ が点灯し、デモ曲(1曲)の再生が開始されます(**6** ▶/■ を除くボタンは消灯します)。終了すると、2曲目以降はミュージックライブラリーの曲が連続再生されます。
 - デモ演奏中は、次の操作が可能です。

これをするには:	この操作をする:
次の曲にスキップする	6 ▶/■ を押さえたまま、B0鍵盤を押す。
前の曲にスキップする	6 ▶/■ を押さえたまま、B#0鍵盤を押す。
特定番号の曲にスキップする	6 ▶/■ を押さえたまま、C1鍵盤～B5鍵盤のいずれか1つを押す。
デモ演奏を終了する	6 ▶/■ にタッチする。

※ 曲目については「ミュージックライブラリーリスト」をご参照ください。

鍵盤の感度を調節する(タッチレスポンス)

タッチレスポンス機能とは、鍵盤を押す強さ(速さ)で音量を変化させる機能です。タッチレスポンス機能を使うとアコースティックピアノのように鍵盤を押す強さ(速さ)で音量や音質が変化し、演奏の表現が豊かになります。

■ タッチレスポンスの感度を変更するには

- 9** GRAND PIANOを押さえたまま、F#7～B7鍵盤のいずれか1つを押します。

鍵盤	設定値	設定内容
F#7	オフ	タッチレスポンスを解除します。鍵盤を押す速度が変化しても音量は一定のままです。
G7	1:軽い	大きな音を出しやすい設定になり、「普通」よりもタッチが軽く感じられます。
A#7	2:やや軽い	
A7	3:普通	標準的な設定です。
B#7	4:やや重い	大きな音を出しにくい設定になり、「普通」よりもタッチが重く感じられます。
B7	5:重い	

- 9** GRAND PIANOを離します。

スマートデバイスとリンクする (APP 機能)

本機をスマートフォンやタブレットなどのスマートデバイスと接続すると、次のことができます。

- スマートデバイスから本機を操作(ピアノリモートコントロール)
- スマートデバイスから楽曲データを本機に転送

■ **スマートデバイス用アプリをダウンロードする**
弊社ウェブサイトから「Chordana Play for Piano」をダウンロードして、お使いのスマートデバイスにインストールしてください。

https://support.casio.jp/emi/manual/PX-S1000/

サウンドモード: ホールシミュレーター(4種)、サウンド

その他エフェクト: コーラス(4種)、DSP、プリアンス

デモ曲: 1曲
ミュージックライブラリー: 内蔵曲:60曲、ダウンロード曲: 10曲(1曲あたり最大約90KB、10曲で約900KB、表記容量は1KB=1024バイト、1MB=1024*バイト換算) / 曲の音量・調節可(録音機能と兼用) / パートのオン/オフ:L、R

録音機能 (MIDIレコーダー): 方式:リアルタイム録音、再生 / 曲数: 曲 / 録音トラック数:2トラック / 容量:合計約1,000音符 / 録音内容の保持:内蔵フラッシュメモリー / 曲の音量・調節可(ミュージックライブラリーと兼用)

メトロノーム: 拍子ベル音:オフ、1~9(拍子) / デンポ範囲:20~255 / 音量:調節可

ペダル: 付属ペダル(SP-3)使用時:ダンパー(オフ、オン)、ソステヌート(オフ、オン)、ソフト(オフ、オン)、メトロノーム(スタート、ストップ)、デフォ設定の間で切り替え可 / ペダルユニット (SP-34、別売品)使用時:ダンパー(オフ、ハーフ、オン)、ソステヌート(オフ、オン)、ソフト(オフ、オン)

その他の機能: オートレジャーム、操作のロック、通知音設定(セット1~セット3切り替え可、音量調節可)

Bluetooth 接続: Bluetoothバージョン:5.0、対応プロファイル:A2DP、対応コーデック:SBC、無線出力: Bluetooth Class 2、送信周波数範囲:2402~2480MHz、無線最大出力:4dBm

MIDI: 16chマルチチャンネル受信
入出力端子: PHONES端子/ステレオミニジャック×2 / 電源端子:DC12V / AUDIO IN端子/ステレオミニジャック(入力インピーダンス 10kΩ、入力感度 200mV) / LINE OUT R、L/MONO 端子:標準ジャック×2(出カインピーダンス 2.3kΩ、出力電圧 1.3V(RMS) MAX) / USB端子:タイプB / DAMPER PEDAL端子:標準ジャック / PEDAL UNIT端子:専用形状

音質: 2電源方式

電池:単3形アルカリ乾電池6本使用

連続動作時間:約4時間

アルカリ電池使用、内蔵デモ曲再生時ご利用の電池の種類や演奏方法によっては連続動作時間が短くなることがあります。

消費電力:12V = 10W

サイズ: 幅132.2×奥行23.2×高さ10.2cm

質量: 約11.2kg(乾電池含まず)

- 改良のため、仕様およびデザインの一部を、予告なく変更することがあります。

本機をBluetoothスピーカーとして使う

本機はBluetoothスピーカーとして利用できます。本機とBluetoothオーディオに対応した外部機器をペアリングすることで、外部機器の再生音を本機のスピーカーから鳴らすことができます。

音量キー

- ペアリング操作のときは、**本機と外部機器の音量を小さめに絞って**おいてください。
- 本機で鳴らし**た外部機器の音が入んだ音で聴こえる場合は、外部機器の音量を下げてください。**

■ **本機とBluetoothオーディオ機器をペアリングするには**

音量キー

- 下記操作で使う鍵盤の位置は、「鍵盤機能一覧」の「FUNCTION ボタン + 鍵盤」をご参照ください。
- 本機は最大8台までのBluetoothオーディオ機器とのペアリング情報を記憶可能です(一度に接続できるのは、1台だけです)。

1. 外部機器のBluetooth設定画面を開き、Bluetoothがオフの場合はオンに切り替えます。

2. **FUNCTION**を押さえたまま、**D1**鍵盤を押します。本機のBluetoothアイコン(🔗)が点滅し、ペアリングの待機状態になります。

- 本機のBluetooth機能の設定がオフの場合は、自動的にオンに切り替わります。

3. **FUNCTION**を離します。

4. 外部機器のBluetooth設定画面で、本機のデバイス名(CASIO Privia)を選択します。

- ペアリングが完了すると、本機のBluetoothアイコン(🔗)が点滅から点灯になります。
- 外部機器から出力された音が、本機のスピーカーから鳴ります。

本機を工場出荷時の状態に戻す

下記の操作で、本機のデータや設定などシステムの内容をすべて初期化して、工場から出荷したときの状態に戻すことができます。

1. **FUNCTION**を押さえたまま、**A0**鍵盤を押します
FUNCTIONは手順2まで押さえたままにしてください。

初期化の待機状態になり、**FUNCTION**が速く点滅しす。

- 次の操作で初期化が実行されます。初期化をやめるには、**FUNCTION**を離してください。

初期化を実行するには、**C1**鍵盤を押します。

初期化が開始されます。

- 初期化には、しばらく時間がかかることがあります。完了するまでお待ちください。初期化が完了すると、本機フロントパネル部のすべてのタッチボタンが点灯します。

演奏を録音/再生する (MIDIレコーダー)

鍵盤演奏を本機で録音し、再生できます。

音量キー

- 本機の故障、修理などによる録音内容の消去により生じた損害、**逸失利益**または**第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。**

- 録音中に電源が切れると、録音してあった内容はすべて消去されます。

鍵盤	鍵盤を押したときの動作
C1～B5	押した鍵盤に応じて、内蔵曲(曲番号1～60)が選択されます。
B0	1つ後の曲番号を選択します。
B♭0	1つ前の曲番号を選択します。

- 鍵盤と曲番号の対応および曲目については「ミュージックライブラリーリスト」をご参照ください。

2. 曲の選択が済んだら、**▶▶**を離します。
3. 曲の再生を始めるには、**▶▶**にタッチします。

- 曲の終わりで到達すると、再生は終了します。曲の途中で再生を止めるには、**▶▶**にタッチします。

録音するには

1. **REC**(白色で点灯)にタッチします。録音待ちの状態になり、**REC**(赤色)と**▶▶**(白色)が点滅します。

2. 録音を始めるには、**鍵盤演奏を開始**します。

REC(赤色)が点滅から点灯に切り替わり、録音中になったことを表します。

- 録音中に残り音符数が100以下になると、インジケータの点滅が速くなり、残りがなくなると録音が停止します。

3. 録音を終了するには、**REC**(赤)または**▶▶**にタッチします。

- REC**(赤)が白色点灯に戻ります。

4. 録音内容を再生するには、**▶▶**にタッチします。

録音した内容を再生するには

1. **▶▶**を押さえたまま、**C7**鍵盤を押します。

2. **▶▶**を離します。

3. 曲の再生を始めるには、**▶▶**にタッチします。

- 曲の終わりで到達すると、再生は終了します。曲の途中で再生を止めるには、**▶▶**にタッチします。

曲を聴く(ミュージックライブラリー)

ピアノの名曲が鑑賞できます。また、曲の右手パートまたは左手パートの音を消して、自分で弾く練習ができます。

■ **ミュージックライブラリーの曲を聴くには**

1. **▶▶**を押さえたまま下記鍵盤を押して、聴きたい曲を選びます。

鍵盤	鍵盤を押したときの動作
C1～B5	押した鍵盤に応じて、内蔵曲(曲番号1～60)が選択されます。
B0	1つ後の曲番号を選択します。
B♭0	1つ前の曲番号を選択します。

- 鍵盤と曲番号の対応および曲目については「ミュージックライブラリーリスト」をご参照ください。

2. 曲の選択が済んだら、**▶▶**を離します。
3. 曲の再生を始めるには、**▶▶**にタッチします。

- 曲の終わりで到達すると、再生は終了します。曲の途中で再生を止めるには、**▶▶**にタッチします。

■ **再生パートを選んだら曲を再生するには**

1. 「ミュージックライブラリーの曲を聴くには」の手順1、2の操作で、曲を選びます。

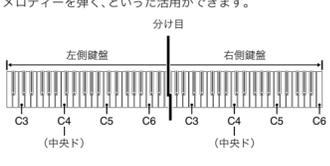
2. 必要に応じて、「テンポを設定する」の操作で曲のテンポを設定します。

3. 再生パート(右手パートまたは左手パート)を選びます。

- ▶▶**を押さえたまま、**A0**鍵盤(一番左端の白鍵)を押します。押すたびに、「L」と「R」のインジケータが下記のように切り替わります。
Lのみ点灯:L手を再生し、右手のパートを消します。
Rのみ点灯:R手を再生し、左手のパートを消します。
LRともに点灯:左右とも再生します。
LRともに点灯:右手を再生し、左手のパートを消します。
LRともに点灯:左右とも再生します。
2) **▶▶**を離します。
- 曲の再生を始めるには、**▶▶**にタッチします。
 - 音を消したパートを、再生に合わせて自分で弾きます。

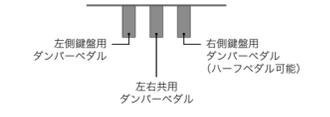
鍵盤を左右に分けて2人で弾く (デュエット)

鍵盤の中央から右側と左側で同じ音域にすることができます。左側で先生がお手本演奏をして、右側で生徒さんが同じメロディを弾く、といった活用ができます。



■ **ペダルについて**

- 別売のSP-34をお使いの場合、両端のペダルが、それぞれ左側鍵盤用と右側鍵盤用のダンパーペダルになります。3本のペダルのうち、右側鍵盤用ダンパーペダルのみハーフペダルに対応します。



・付属のSP-34をお使いの場合、左右共用ダンパーペダルにするには、**DAMPED PEDAL**端子に接続します。ハーフペダルには対応しません。

■ **デュエット機能を使うには**

音量キー

- 下記操作で使う鍵盤の位置は、「鍵盤機能一覧」の「FUNCTION ボタン + 鍵盤」をご参照ください。

1. **FUNCTION**を押さえたまま、**C4**鍵盤を押します。**FUNCTION**を押したまま、**D1**鍵盤を押します。

通知音	設定値	説明
オフ音	オフ	デュエット機能をオフにします。
番号通知音×1回	オン	デュエット機能をオンにします。
番号通知音×2回	パン	デュエット機能にオンにし、左側鍵盤の音は左スピーカーからのみ、右側鍵盤の音は右スピーカーからのみ出るようにします。

2. 希望する設定に切り替わったら、**FUNCTION**を離します。

メトロノームを使う

メトロノームは一定の間隔で音を刻みます。メトロノームを使うことで、一定のテンポを保つ練習ができます。

■ **メトロノームを鳴らすには、止めるには**

1. **METRONOME**にタッチします。メトロノームがスタートします。

- メトロノームの拍子に合わせて、**▶▶** ボタンの上にある黄色と赤のLEDが点滅します(1拍目:黄色、残りの拍:赤)。

2. メトロノームを止めるには、もう一度**METRONOME**にタッチします。

■ **メトロノームの拍子を変えるには**

1. **METRONOME**を押さえたまま、**C2**~**A2**鍵盤のいずれか1つを押します。

鍵盤	設定値	設定内容
C2	オフ	すべての拍でクリック音だけが鳴ります。
C#2	1	すべての拍でベル音が鳴ります。
D2	2	
E♭2	3	
E2	4	
F2	5	2拍子~9拍子に設定します。1拍目にベル音が鳴り、残りの拍はクリック音が鳴ります。
F#2	6	
G2	7	
A♭2	8	
A2	9	

- 各鍵盤の位置は、「鍵盤機能一覧」の「METRONOME ボタン + 鍵盤」をご参照ください。

2. **METRONOME**を離します。

テンポを設定する

メトロノームや、ミュージックライブラリーの曲を再生する際のテンポを、20~255(拍/分)の間で設定できます。テンポの設定に使う鍵盤の位置は、「鍵盤機能一覧」の「METRONOME ボタン + 鍵盤」をご参照ください。

■ **テンポの設定値を入力するには**

1. **METRONOME**を押さえたまま、**B0**~**A♭1**鍵盤を使ってテンポの設定値を入力します。

- テンポの設定値は3桁で入力します。100(拍/分)未満のテンポを設定したいときは、数値の先頭に必ず「0」を付けてください。例えば80拍/分にしたい場合は、B0(0) → G1(8) → B0(0)の順に鍵盤を押します。3桁目まで入力すると、完了音が鳴ります。
- METRONOME**を押さえたまま**A0**鍵盤(ー)または**B♭0**鍵盤(+)を押すことで、テンポを1ずつ上げ下げすることもできます。

2. 設定が済んだら、**METRONOME**を離します。

ご使用上の注意

別紙の「安全上のご注意」と併せてお読みください。

■ **設置上のご注意**

本機を次のような場所に設置しないでください。

- 直射日光のあたる場所、温度の高い場所。
- 極端に温度の低い場所。
- ラジオや、テレビ、ビデオ、チューナーに近い場所(これらを近くに置いた場合、本機には特に障害はありませんが、近くに置いたラジオやテレビの側に雑音や映像の乱れが起こることがあります)。

■ **本機のお手入れについて**

- お手入れにベンジン、アルコール、シンナーなどの化学薬品は使わないでください。
- 鍵盤などのお手入れは柔らかい布を薄い中性洗剤液に浸し、固く絞ってお拭きください。

■ **付属品・別売品**

付属品や別売品は、本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

■ **ウエルドライン**

外観にスジのように見える箇所がありますが、これは、樹脂成形上のウエルドラインと呼ばれるものであり、ヒビやキズではありません。ご使用にはまったく支障ありません。

■ **音のエケクット**

楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。周囲に迷惑のからない音量でお楽しみください。窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

サウンドモード

4**SOUND MODE**ボタンを使って、下記効果のオン/オフを切り替えることができます。

- ホールシミュレーター
透明感のある端正な響きや、伸びやかで華やかな響きなど、世界的に有名なコンサートホールや建築物内の、それぞれに異なる音響特性をシミュレートします。

● **サラウンド**
擬似的な立体的音響(バーチャルサウンド効果)が得られます。

音量キー

- サラウンドの効果は、本機の**PHONES**端子および**LINE OUT R、L/MONO**端子からの出力音にはかかりません。

■ **ホールシミュレーターとサラウンドのオン/オフを切り替えるには**

1. **SOUND MODE**にタッチします。

- タッチするたびに、LEDの点灯状態が次のように切り替わります。



■ **ホールシミュレーターのタイプを選ぶには**

1. **SOUND MODE**を押さえたまま、**A0**~**C1**鍵盤のいずれか1つを押します。

鍵盤	設定値	設定内容
A0	1:STANDARD HALL	一般的なコンサートホール
B♭0	2:OPERA HALL	ユニークな形状をしたシドニーのコンサートホール
B0	3:BERLIN HALL	ベルリンのアリーナ形式クラシックコンサートホール
C1	4:BRITISH STADIUM	ロンドン郊外の大型野外スタジアム

2. **SOUND MODE**を離します。

■ **サラウンドのタイプを選ぶには**

1. **SOUND MODE**を押さえたまま、**F1**鍵盤(サウンドタイプ1)または**F#1**鍵盤(サウンドタイプ2)を押します。

2. **SOUND MODE**を離します。

ミュージックライブラリーリスト

番号	選択鍵盤音名	曲名
1	C1	ノクターン 作品9の2
2	C#1	幻想即興曲 作品6 6
3	D1	エチュード 作品1 0の3 <別れの曲>
4	E♭1	エチュード 作品1 0の5 <黒鍵>
5	E1	エチュード 作品1 0の1 2 <革命>
6	F1	エチュード 作品2 5の9 <蝶々>
7	F#1	プレリュード 作品2 8の7
8	G1	ワルツ 作品6 4の1 <小犬のワルツ>
9	A♭1	ワルツ 作品6 4の2
10	A1	楽興の時 第3番
11	B1	即興曲 作品9 0の2
12	B♭1	軍隊行進曲 第1番 (連弾)
13	C2	春の歌「無言歌 第5集」より
14	C#2	楽しい農夫「ユージェント・アルバム」より

15 D2 見知らぬ国と人々について「子供の情景」より
16 E♭2 トロイメライ「子供の情景」より
17 E2 タンゴラン
18 F2 ヌヌエット BWV A n h. 1 1 4「アンナ・マグダレーナ・バッハのクラヴィエール小曲集」より
19 F#2 インヴェンション 第1番 BWV 7 7 2
20 G2 インヴェンション 第8番 BWV 7 7 9

21 A♭2 インヴェンション 第1 3番 BWV 7 8 4

22 A2 インヴェンション 第1 3番 BWV 7 8 4「平均律クラヴィエーア曲集 第1巻」より
23 B♭2 かつこう
24 B2 ガボット
25 C3 ソナチネ 作品3 6の1 第1楽章
26 C#3 ソナチネ 作品2 0の1 第1楽章
27 D3 ソナタ K. 5 4 5 第1楽章
28 E♭3 ソナタ K. 3 3 1 第3楽章 <トルコ行進曲>
29 E3 ロンド K. 4 8 5
30 F3 エリイゼのために
31 F#3 トルコ行進曲
32 G3 ソナタ 作品1 3 <悲愴> 第1楽章
33 A♭3 ソナタ 作品1 3 <悲愴> 第2楽章
34 A3 ソナタ 作品1 3 <悲愴> 第3楽章
35 B♭3 ソナタ 作品2 7の2 <月光> 第1楽章

36 B3 ラプソディ 第2番
37 C4 ワルツ 作品3 9の1 5 (連弾)
38 C#4 愛の夢 第3番
39 D4 花の歌
40 E♭4 乙女の祈り
41 E4 クシコス・ポスト
42 F4 ユーモレスク 作品1 0 1の7
43 F#4 メロディイ「欲情小曲集 第2集」より
44 G4 シシリエーナ 作品7 8

- JIS C 61000-3-2適合品
本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

CEマーキングは、ヨーロッパ地域の基準適合マークです。

Manufacturer:
CASIO COMPUTER CO., LTD.
6-2, Hon-machi 1-chome, Shibuya-ku, Tokyo 151-8543, Japan
Responsible within the European Union:
Casio Europe GmbH
Casio-Platz 1, 22848 Norderstedt, Germany
www.casio-europe.com

本書に記載されている社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標および商標です。

本書の内容については万全を期して作成いたしましたが一、万一ご不明な点や誤りなど、お気付きの点がございましたらご連絡ください。

本書の一部または全部を無断で複製することは禁止されています。また、個人としてご利用になる場合は、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。

本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。

本書の内容については万全を期して作成いたしましたが一、万一ご不明な点や誤りなど、お気付きの点がございましたらご連絡ください。

本書の一部または全部を無断で複製することは禁止されています。また、個人としてご利用になる場合は、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。

本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。

定格表示は製品底面ラベルに記載されています。